

研究・調査報告書

報告書番号	担当
178	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Two-year outcome of alcohol interventions in Swedish university halls of residence: a cluster randomized trial of a brief skills training program, twelve-step-influenced intervention, and controls.</p> <p>スウェーデンの大学寮の学生への2年間の飲酒介入研究：短期研修と12段階プログラム、対照との無作為化比較試験</p>	
執筆者	
Stahlbrandt H, Johnsson KO, Berglund M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2007 Mar;31(3):458-66.	
キーワード	
無作為化比較試験、飲酒介入、大学寮、短期研修、12段階影響プログラム	
要旨	
<p>目的:</p> <p>大学生の間での危険な飲酒行為についてはよく議論されているところである。何種類かの介入法が減酒に有効であると明らかになっている。大学寮の住人に2種類の介入を行い2年間の結果を見た。</p>	
<p>方法:</p> <p>98の大学寮(556人の学生を含む)の住人をランダムに2群に割り付け介入研究を行った。一つは短期間技能訓練brief skills training program (BSTP) を対話形式の講義や議論で行うもので、もう一方は12段階プログラムtwelve-step-influenced (TSI) programをこの方法をよく習得したセラピストから教訓的な講義を受けるものである。さらに対照群を設けた。すべてのベースライン調査を終えた学生は個別にメールでフォローアップを受けた。学生は1年、2年、3年後にメールでフォローアップに応じ、それは飲酒頻度とアルコール使用障害識別テストalcohol use disorders identification test (AUDIT) (2年後と3年後)、短答式質問紙short index of problems (SIP)、血中アルコール濃度測定も含まれていた。</p>	
<p>結果:</p> <p>2年後には、両群で AUDIT スコアがベースライン時より有意に低下していた。各群と対照群の間で有意な差は見られなかった。ベースライン時の AUDIT スコアで男性 8、女性 4 以上の大量飲酒者が全体の 77%を占めていた。大量飲酒者では AUDIT スコアは BSTP 群が対照群に比して有意に低下しており、TSI 群より良い結果が出る傾向がみられた(p=0.06)。SIP とアルコール血中濃度も同様の傾向を示した。大量飲酒の学生では TSI 群は対照群に比して有意な差は見られなかった。</p>	
<p>結論:</p> <p>この研究で大量飲酒をする学生への介入はBSTPが効果的である事が示された。</p>	